令和７年度第３回学校運営協議会　報告書

１　目　的　　道立学校の運営及び当該運営への必要な支援に関して協議する機関として、保護者及び地域住民等が学校運営に参画し学校との連携を強めることにより、学校と保護者及び地域住民等が信頼関係を深め、一体となって学校運営の改善並びに生徒の健全育成を図ることを目的とする。

２　日　時　令和８年２月18日（水）　17:00～18:15

３　場　所　北海道津別高等学校　多目的教室

４　出席者〈学校運営協議会委員　敬称略〉

上　野　真　司(※1)
河　本　純　吾(※1)
立　川　　彰(※1)
笠　川　早　苗(※1)
長　瀬　加寿哉(※2)
佐　藤　久　哉(※3)
谷　口　正　樹(※4)（欠席）
迫　田　　久(※4)
三　村　文　弥(※6)
森　本　邦　紀(※6)

〈学校・各部会担当者〉

校長　島　村　真　幸
教頭　山　﨑　辰　也
教諭　小　堀　健　介
　　平　子　　裕

注）(※1)地域住民
(※2)生徒の保護者
(※3)運営に資する活動を行う者
(※4)行政機関の職員
(※6)学識経験者

５　議　事
(1)会長挨拶
(2)校長挨拶
(3)令和７年度事業報告及び学校評価について
(4)津別小中高における探究学習の連携、ロードマップ化の動きについて
(5)津別町学校運営協議会と津別高校学校運営協議会の協働について
(6)その他

６　熟議内容
・今の中学生は高校の情報をインターネットから収集している。
・ミュージックフェスのように地域の人たちと共同で開催している試みは大変良いもので、全員がギターなど楽器が弾けるようになる利点、楽しさなどを伝えられると良い。
・公設民営塾の利用には、学校から塾までの距離、アクセスの問題がある。津別町巡回バスの花バスを活用したり、電動キックスクーターの利用を考えたりはできないだろうか。
・小規模校ゆえの問題として、人間関係が固定化してしまい、いわゆる高校デビューができない側面もある。津別から出ていく分を他の地域から入れるという考え方もあるが、住むところの確保は今後の大きな課題。
・管内、全道、全国から生徒を受け入れるのであれば寮の問題がある。
・地域コーディネーターの設置は必要なことで、予算が付かないのであれば、町の人を上手く活用できないか。
・地域コーディネーターや寮母など、情熱ある人頼みになると、その人がいなくなると継続性がない。人頼みにならないように仕組みを作るのが行政の役割。
・総合的な探究の時間のロードマップについて、子ども園の取組から高校卒業まで一貫して考えるという方法もある。
・小中高の10年ロードマップに出てくるそれぞれの事業者のつながりがないことも課題。

７　次年度に向けて
・学校運営協議会の開催が年３回は少ない。次年度は定期的に回数を多くして、１度の会議時間を減らすなどの工夫が必要。
・ロードマップの動きをもとに、幼小中高までの18年間で子どもの育成を考えるのであれば、高校が音頭を取るより、町教委が音頭を取った方が良い。高校の学校運営協議会としては、津別町の学校運営協議会との共催（年に１度は一緒に実施、または部会ごとに実施してお互い報告の機会を設けるなど）を要望したい。